

# 社会科(公民的分野)学習指導案

八潮市立大原中学校

教諭 岩元 響

## 1 単元名 政党と政治

## 2 単元の目標

- 民主政治の基本的な考え方と、その運用について理解し、諸資料から情報を適切に選択、分析して自分の考えの根拠として活用する。【知識及び技能】
- 様々な資料や立場を基に、議会制民主主義の中で主権者として自分の考えを表現し、適切と考える具体策を判断・選択する。【思考力、判断力、表現力等】
- 民主政治の仕組みや政党の役割に関連させて、社会の構成員としての主体性を養う。【学びに向かう力、人間性等】

## 3 単元設定の理由、生徒の実態

### (1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会 公民的分野「C 私たちと政治 (2)民主政治と政治参加」を受けて構成されている。以下、枠内は指導要領より抜粋したものである。

### (2) 民主政治と政治参加

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア)国会を中心とする我が国の民主主義の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。

(イ)議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。

(ウ) 省略

(エ)地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

総務省ホームページの「国政選挙における年代別投票率について」によると、平成29年10月に行われた第48回衆議院議員総選挙では、10歳代が40.49%、20歳代が33.85%、30歳代が44.75%である。また、令和元年7月に行われた第25回参議院議員通常選挙では、10歳代が32.28%、20歳代が30.95%、30歳代が38.76%となっていることが示されている。公職選挙法の改正に伴い選挙権が18歳に引き下がった現在、若年層の投票率の水準が低いことが課題となる。そのため、平成28年3月31日にまとめられた「主権者教育の推進に関する検討チーム中間まとめ」では、「選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことにより、これまで以上に、子供の国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力を育むこと等が重要となっている。」と述べられている。

つまり、中学校段階においても主権者としての自覚を促すことが求められており、中学校学習指導要領(平成29年告示)

解説 社会編でも「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」という内容が、改訂の基本的な考え方の1つとして挙げられている。「社会参画に対する意識」を育む視点は重要となるが、ここでいう「社会参画」とは、唐木(2008)の、「自分と社会との関わりを強く認識し(自分が社会の一構成員であることを自覚し、)その社会をよりよいものとするために自分たちにできることを主体的に考えること」とする。

生徒が今後生きていく未来は、グローバル化や情報化、少子化などの社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっている。これに伴い、国の政治に関わり、国民として課題を解決しようとする意識を育てることが必要である。本単元は、国会を中心とする我が国の民主主義の仕組みや政党の役割を理解し、民主政治の推進と国民の政治参加との関連について考察、構想し、表現することを主なねらいとする。

## (2) 生徒観

—略—

## (3) 指導観

### ① 関ブロ川越大会をうけて

本研究では、目指す児童生徒の姿と課題(教科横断的な視点で育成したい資質・能力)を以下のように分けて設定した。

#### 【目指す児童生徒の姿】

社会科の見方・考え方を働かせて課題を発見し、その解決のために各教科等で育成した資質・能力を活用する子

#### 【課題(教科横断的な視点で育成したい資質・能力)】

現代的な諸課題に対応できる問題発見・解決能力の育成

これらは、2017年11月に行われた第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会(以下「川越大会」と表記する)の大会主題「追究する力を育てる社会科学習 ―主体的・協働的に学ぶ学習の充実―」と響き合う点がある。川越大会では公民的分野の育てたい生徒の姿を資質面・能力面に分けて以下のように設定した。

**資質** 現代の社会的事象に対する関心を持ち、主体的にその課題を見出し、自分なりの解決策を構想するなど、社会参画に対する意識をもてる生徒

**能力** 適切な情報収集と他者との関わりを通して、多面的・多角的な考察を行うことで思考を深め、習得した知識や技能を活用したり、現代社会の見方や考え方を働かせたりして、明確な根拠のもとに公正な判断を行い、自分の考えを適切に表現できる生徒

公民的分野は小学校での社会科学習、中学校地理的分野・歴史的分野の学習の上に立って成立している。それゆえ公民的分野の研究を通して育てたい生徒の姿は、本研究でめざす育てたい生徒の姿に義務教育終了段階として最も近づいている状況にあると考える。本研究は、新たな取り組みを促すものではなく、従来から行われてきた各教科の研究に対し、さらに意識的にコンピテンシーの部分で横断を計る取り組みである。

## ②「八潮スタンダード」をうけて ～ヘルバルト主義教育に理論を学ぶ～

本市では、「つかむ・見通す」「考える」「深める」「まとめる」の学習の流れを「八潮スタンダード」という。課題を明確にし、学習意欲を喚起したり解決の見通しをもたせたりする「つかむ・見通す」学習を行い、見通しに基づいて実行する「考える」学習、対話的な学びで課題の解決を図ったりよりよい方法を考えたりする「深める」学習を行った後、課題に沿って振り返り、新たな課題を見出す「まとめる」学習の流れである。この考えは、ドイツの教育学者ヘルバルトの考え(正確には後述するヘルバルト主義教育学)に非常に類似している。ヘルバルト主義教育学は、帝国大学文科大学(現在の東京大学)の谷本富により紹介され、著作『実用教育学及教授法』では、日本人に分かりやすく改変し、流行となった。谷本富は、「準備」「提示」「織綜(内容としては『比較』)」「統合」「応用」の5段階を示した(ヘルバルトは教授の一般的段階を「明瞭・連合・系統・方法」の4つに分け、後にティラーやラインによって5段階に分けられ、現在ではこの形で定着する)。「準備」では、新しい学習に入る前に、すでに獲得している概念と類同している部分の有無を確認し、それが有れば分析して明確にすることを準備とし、学習者の既知の情報を喚起させる。まったく新しいことを教えるのではないことや、学習者に教授する目的を示す重要性を説いている。次に「提示」では、新たに学習する内容を示す。ここでは、「準備」と「提示」を一緒に行うのではなく、明確に分けて順よく行うことの重要性を示している。「織綜(内容としては『比較』)」では、すでに獲得している概念と類同・反対の内容を提示や話し、比べさせることの重要性を示している。この手続きがなければ概念化された知識の獲得はないと述べられている。「統合」では、得られた概念的結果をわかりやすく自分の言葉で表し、各教科特性に応じてまとめることが大切であるとしている(当時行われていた「修身科」では格言を使いまとめること、「歴史地理科」では重要な事柄を表にしてまとめること、「理科」では原則を見つけ、書いてまとめることを例としている)。「応用」では、自分なりに例をもって説明したり、既知の知識を活用してまとめる活動を行うことや、テスト(当時は「試問」と表記)を行ったりする活動を行い、体系化された知識を具体的なものとして適用することを必要としている。

いままでの学習が機械的記憶(所謂「暗記」)に頼りきった授業の反省を活かして、明治時代にも学習者の心理にそった学習法(教授法)として影響を与えた。しかし、学習法(教授法)が形式化してしまい、形式主義の批判を受けたことや、断片的な知識しか身につかず、学問を体系的に学ぶことや専門的に学ぶことができないといった批判(いわゆる「這いまわる経験主義」)もある。受験競争や全国学力学習状況調査等で見られる、可視化し比較できる点数に振り回され、すぐに結果が出やすい機械的記憶に頼りたくなる部分もある。また、教育の場が政治的判断に左右されることもある(参考:「スプートニクショック」)。そのため、本来教育の目的である「人格の完成」から程遠い、「点数のための知識注入」になりがちな教育現場であることを私たちは理解しながら、授業を練り直す必要がある。八潮市では「八潮スタンダード」があるため、練り直しの際には、一度立ち返ることが良いと考える。また、練り直しのポイントとして、次のトピックに記述する。

## ③社会科(公民的分野)における「見方・考え方」を働かせた学習指導～ブルーナーに理論を学ぶ～

本単元は社会科の公民的分野である。公民的分野の学習においては、小学校段階や地理的分野、歴史的分野における「社会的な見方・考え方」を働かせつつ、まずは新たな学習の中で基本的な概念や考え方を習得させることが求められている。さらに習得した概念を働かせ、社会的事象の特徴や課題を発見し、考察、構想することが現代社会の見方・考え方を働かせることである。例えば、「民主主義」とはどのような概念か、なぜそのような仕組みがあるのか、を理解させる必要がある。その上で「投票率の低下」という社会的事象について課題を発見し、「よりよい社会」に向けて考察したり、構想したり、表現することができるようになることを考える。

## 【各単元の概念】

内容	概念的な枠組みの基礎	課題の特質に応じた視点（概念）
A 私たちと現代社会	対立と合意、 効率と公正	位置や空間的な広がり、推移や変化など
B 私たちと経済		分業と交換、希少性など
C 私たちと政治		個人の尊重と法の支配、民主主義など
D 私たちと国際社会の諸課題		協調、持続可能性など

近年、この「見方・考え方」が注目されるのは、2017年に改訂された学習指導要領(以下「学指」と記載)が大きく関係している。また、この学指はアメリカの心理学者・教育学者のブルーナーの影響を受けていると考えられる。「見方・考え方」という言葉は、ブルーナーの「構造」「態度」という文言と響き合う。

ブルーナーの著書『教育の過程』では、学問の本質的で単純な構造を身に付けるには、子どもたちに外側から知識を注入するのではなく、学者と同様の「過程」を経て本質的な構造を自ら発見するような教育課程をつくる重要性を上げている。そうすることで、発見することへの態度を深めることや、学習の方法を学習することができるという説いている。実際に、本書の中では「どの教科でも、知的性格をそのままにたもって、発達のどの段階のどの子どもにも効果的に教えることができるという仮説から始めることにしよう。」という文章がある。つまり、著者は一貫して仮説を立て検証させるという手続きの学びそのものを習得する重要性を主張しており、その学びの手続き自体を著書で行っているものである。

学指の「見方・考え方」の「見方」は、ブルーナーの以下の内容から読み取ることができる。

「つまり、できるだけ迅速に、ある一つの学問のもっている基本的観念についての感覚を生徒に与えようというしかたで、それを強調すること」「教科の構造を把握するということは、その構造とほかの多くのことがらとが意味深い関係を持ちうるような方法で、教科の構造を理解することである。簡単にいえば、構造を学習するということは、どのようにものが関連しているかを学習することである。」「意図するところは、教育課程を計画する場合に、これまでにしばしば見落とされた、欠くべからざる一点を銘記すべきだということにある。その一点とは、すべての科学と数学の中核をなす基礎的観念や、人生や文学を形成する基礎的テーマは、強力であるが、同時に単純なものであるということである。」

つまり、周辺知識は後からでも身に付ける(注入する)ことも可能であり、各教科の普遍的な構造を学習することが重要であると述べている。学指の「見方」を働かせながら「考え方」を習得することで、未知の概念を獲得する際に処理するあらゆる方法を考えることができる。ブルーナーは「それは、ある分野で基本的諸観念を習得するということは、ただ一般的原理を把握するというだけではなく、学習と研究のための態度、推量と予測を育ててゆく態度、自分自身で問題を解決する可能性に向かう態度などを発達させることと関係があるということである。ちょうど物理学者が、自然のもっている窮極の秩序と、その秩序は発見できるものであるという確信とに関して一定の態度をもっていると同じように、物理を勉強している若い生徒が、学習することがらを、自分が思考するとき役に立つものにし、意味のあるものにするような方法で組織しようとするならば、物理学者のもっている態度をいくらかでもそのまま自分のものにする必要がある。そのような態度を教育するためには、たんに基本的観念を提示する以上のなにかが必要である。」「そのようなやり方に賛成している議論は、学習がその学問の最前線で行っていることと、子どもがはじめてそれに近づくときにしているもの間には連続性があるという想定を前提にしているのである。」とも述べており、学習の「過程」が最重要であることがわかる。

社会科の授業を行う際、この「見方・考え方」が活かされない授業は、それは社会科の授業とは言えない。周辺知識を定着させることを重視するよりも、「見方・考え方」を習得し、働かせることが重要である。

## 5 指導計画

- (1) 民主政治と政治、政治参加と選挙の仕組み・・・1

### 【単元を貫く課題】

「主権者として現代の民主政治と政治参加の課題を解決するにはどうしたらいいだろうか？」

- (2) マスメディアと世論・・・2      (5) 国会の働き・・・5  
(3) 政党と政治・・・3 (本時)      (6) 内閣と行政の役割・・・6  
(4) 国会の地位と仕組み・・・4      (7) 選挙・・・7・8

## 6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解し、その知識を身に付けている。 また、国会や現代の民主政治の仕組みに関する内容の諸資料から、情報を適切に選択・分析し、自分の考えの根拠として活用している。	民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について、多面的・多角的に考察・構想し、適切と考える方法を判断・選択している。	議会制民主主義の意義や、政党の役割を考え、主権者として課題を解決する方法を能動的に見つけようとしている。

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

○政党の役割を理解する。

○選挙を通じて国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

### (2) 展開

過程	学習内容と予想される反応 ☆研修主題にせまる取組	指導の留意点 ★…八潮スタンダード実践の工夫	評価
つかむ・見通す 8分	<p>1 前時までの復習と本時の学習内容をつかむ。映像資料をスクリーンに提示しながら、前回までの復習を行う。その際に、「政治家カード(本時で演じる人物のプロフィールが記載されたカード)」をランダムに配布し、確認させる。</p> <p>2 選挙の際にかかるお金の話や、政党をつくるうえで必要となる情報を全体で共有する。</p>	<p>・前時までの学習を思い出させ、本時への意識付けをする。</p> <p>・モニターに PowerPoint で作成したスライド等を映し出し、生徒の思考を引き出す。</p> <p>★意見を発表や、他者の話から、本時の課題を明確化する。</p> <p>★小学校での既習事項を確認し、本時の内容へとつなげる。</p>	
<p>学習課題：「政党はどのような働きをしているのだろうか？」</p>			
考える 10分	<p>3 「政治家カード」を見て、自分が演じる人はどこの政党に所属するべきか考える。</p> <p>☆演じる役割を決めるカードをランダムに配布し、ロールプレイ形式で授業を行う。</p> <p>☆「PREP 法」により、自分の考えをまとめる。</p>	<p>・自作プリントにより、シチュエーションの確認と基本事項を学ばせ、見方・考え方を働かせて取り組ませる。</p>	
深める 22分	<p>4 政党ごとにあつまり、グループを形成する。</p> <p>☆他の生徒の意見を聞き、自分の立場で考えたものの相違点などを見つける。</p> <p>・はじめの 10 分で「その政党を選んだ理由」「その政党を選ぶ良さ」等について 4 人程度のグループで話し合う。</p> <p>・残りの 10 分で「政党に所属する良さ」等に触れながら「政党の働き」について先述のグループで話し合う。</p>	<p>・個人で考えた内容を活かして、グループで共有し、他の生徒の意見を聞き、考えの練り上げに取り組ませる。</p> <p>★他者の意見を聞き、自分の考えと比べて何が違うかを考えさせる。</p>	<p>・政党の役割を理解している。【知】</p> <p>・選挙を通じて国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。【思】</p>

	<p style="text-align: center;">＜予想される生徒の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての選挙戦なので、自分の声を届けるためには、自分と同じ考えの人が集まっている政党に所属しようと考えた。政党は自分のやりたいことの実現のために活動し、実現を目指すことができる組織であると考えた。</li> <li>・自分の意見があまり反映されなくても、選挙戦を勝ち抜くためには政党のネームバリューが大切だと感じた。一人の力は弱くても、政党として集まることで実現可能性を引き上げることができるのが良い点であると感じた。一方で、自分のめざす政策が反映されないのに、政党に所属するのはどうなんだろうと疑問に思った。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">まとめ 10分</p>	<p>5 政党に所属する良い点、悪い点を本時のロールプレイからまとめる。また、学習課題の「政党はどのような働きをしているのだろうか？」についてまとめる。</p> <p style="text-align: center;">＜予想される生徒の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ考えを持つ人々で結成され、それを実現するために活動する集団。</li> <li>・一人ひとりの声では小さいが、まとまることによって大きな力として活動できるための組織。少数意見を大切にすることを忘れてはいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動の中で、見つけたことや疑問に思ったこと等と関連させながら、自分の考えをまとめさせる。</li> </ul> <p>＜評価基準と手立て＞</p> <p><b>A基準</b>：政党の働きについて「①同じ政治上の主義・主張を有する者により組織され」「②政策を示し多くの人々の合意を得て」「③それを実現しようとする団体」であることを理解している。また、「対立と合意、効率と公正」や「民主主義」の視点をもって自分の考えを述べている。さらに、現在の政党のもつ働きの良い点や課題について考えることができている。</p> <p><b>B基準</b>：政党の働きについて上記の「①」「②」「③」を理解している。また、「対立と合意、効率と公正」や「民主主義」の視点をもって自分の考えを述べている。</p> <p><b>C基準</b>：B基準の内容ができていない。あるいは内容に一部誤りや欠けがある。</p> <p>※C基準の生徒への手立ては、本時の発表や、各グループからの諸資料、今までの既習事項を見直して考えるよう助言をする。</p>

## 8 参考文献・資料

- ・総務省ホームページ「国政選挙の年代別投票率の推移について」  
[http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/news/sonota/nendaiabetu/](http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaiabetu/)
- ・唐木清志 「子どもの社会参加と社会科教育—日本型サービス・ラーニングの構想—」 2008 東洋館出版社
- ・谷川彰英 「問題解決学習の理論と方法」 1993 明治図書出版
- ・第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会
  
- ・政治家カードの一部

氏名	青木 一郎
性別	男性
年齢	45歳
地域	沖縄県

～初めての選挙戦～

<こんな人です>

- ・自分を頼ってくれている有権者は、小さな子どもがいる家庭が多い。
- ・少子化対策を熱心にやりたいが、消費税は上げたくない。
- ・世論を反映した政治を行いたい。

氏名	加賀 くるみ
性別	女性
年齢	50歳
地域	福岡県

～3度目の選挙戦、過去2度当選～

<こんな人です>

- ・自分を頼ってくれている有権者は、子どもがいる家庭が多い。
- ・消費税は上げたくない。子育て支援を充実させたい。
- ・選挙費用を用意するのは難しい。

氏名	鈴木 ひろし
性別	男性
年齢	32歳
地域	北海道

～初めての選挙戦～

<こんな人です>

- ・自分を頼ってくれている有権者は高齢者が多い。
- ・消費税は上げたくない。高齢者の失業問題をなんとかしたい。
- ・若い世代で国会に改革をしたい。

氏名	川田 俊介
性別	男性
年齢	40歳
地域	山口県

～3度目の選挙戦、前回のみ当選～

<こんな人です>

- ・高齢者の失業問題に着目している。
- ・増税はしてもよいと思う。しかし、国民の反発が怖いので、15%までではないかと考えている。
- ・若い声を求めている政党に行きたい。